

# とむろいし 戸室石だより

土塀の石垣のように、みんなで、暖かい病院を！ 発行：金沢医療センター編集委員会

## 電子カルテが稼働開始！

情報システム室室長 吉村 光弘

金沢医療センターでは、病院情報システム（電子カルテ）が2004年10月12日（月）より稼働を開始しました。

「患者サービスの向上」、「医療ミスの防止」、「医療コストの削減」の3つの基本方針を達成するためです。

新しいシステムには、それまでの医事業務や血液・組織検査に加えて、診療録や看護記録、MRI やCTスキャン、心電図などの画像が組み込まれています。各診療科のカルテが一つになり互いの診療科でみている病気の状態や検査結果、レントゲン写真、治療内容などをいつでもどこからでも見ることができます。

医師間の連携だけでなく、看護・リハビリといった多方面からも患者さんの状況が把握できます。CTスキャンやMRIなどの先端機器で撮った画像を以前と比較したり、詳しい経過をかかりつけの医師にお渡ししたりといったことも簡単にできるようになりました。

さて、コンピュータはなかなか融通が利きません。たとえば診察カードで患者さんを確認しないと受付してくれません。また、キーボードからの入力は、紙カルテに比べて時間がかかります。このようなコンピュータシステムの導入には率直なところ反対意見も出ました。しかし、10年先を見据えた病院の基本構想には、電子カルテを利用した医療改革が必要との判断のもとに、院長の強いリーダーシップによって導入が進められました。一旦入力された情報はさまざまな形で蓄積され、医療の質を高めるための未来への資産となり、患者さんの治療に還元されます。高度の医療技術と熟練した経験をもったスタッフによる「ていねいな医療」という当院の持ち味をフルに発揮する上で、電子カルテは待ち望んでいた医療器具の1つです。今後も私たちは、「患者本位の医療」がなにかを常に追求する努力を怠りません。



## 電子カルテになって、これまでの診療とどの様な点が変わったのかを、わかりやすくご説明します。

### <1. 予約の有無にかかわらず受付が必要です>

診療の受付には、まず、病院の玄関ホールの医事カウンター前の受付機に診察カードを入れていただくことから始まります(写真1、2)。予約のあるなしにかかわらず診察カードでの受付が必要となる点がこれまでと違います。



写真1

玄関ホールの受付機：予約のあるなしに関わらず診察カードを入れて受付します。以前からお使いのカードが利用できます。3台のうち左の2台が当日予約のある方で、右の1台が予約なしの方用です。



写真2

受付機の画面：これまでと同じように受診する科にふれて確定ボタンを押します。受付表と診察カードが出てきますので、この2つを診療科の受付看護師にお渡し下さい。

受付機から印刷された受付表を持って、受診する診療科の受付カウンターへお越しください。ここで、診察カードを看護師にお渡しください。検査のない方はそのままお待ちください。(イラスト1: 診察と薬だけの場合)。

### <2. 検査は基本伝票と診察カードの入ったファイルを持って行きます>

採血やレントゲン検査が診察前に予定されている場合は、透明なファイルに診察カードと「基本伝票」とをはさんで、検査室や撮影室へご案内します(イラスト2: 診察前に検査がある場合)。基本伝票には、どの検査を受けるかが記入されています。検査が終わって診療科に戻りましたら、必ず受付看護師にファイルをお渡しいただき、診察をお待ちください。

**検査が終わられた後、ファイルをそのまま持っていますと、検査が終わったことがわからず、診察室に呼ばれない可能性があります。「必ずファイルは担当者に預けられている」が原則です。**

ご面倒でもこの、受付機での受け付けと診療科の受付カウンターでの2回の受付をお忘れにならないようお願い致します。

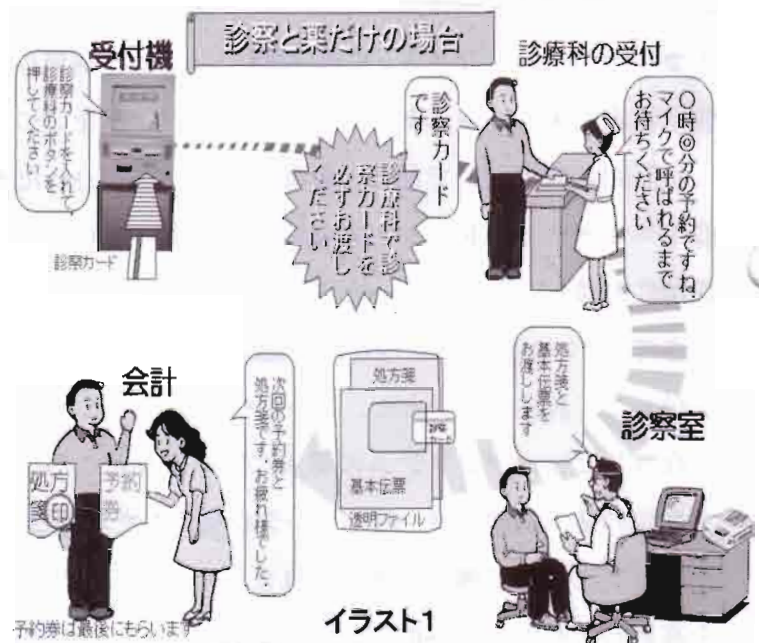


イラスト1

### <3. 待ち時間が短縮されます>

全科が時間予約制の診療を行います。大半の医師は8時半から30分毎に4~6人程度の予約を入れています(科によって異なります)。



これまでのように、朝早くから順番札を取ったり、ノートに名前を記入する必要はありません。受付開始前の30分くらい前から並んで待っておられる方がいらっしゃいますが、患者様の予約時間に間に合うように来ていただければ、十分受診できます。

急用で、予約なしに受診されても構いませんが、できれば前日までに電話で再来予約を変更していただくと、主治医は大変助かります(電話での予約変更は毎日午後2時30分～4時30分に医事で受け付けています)。ただし、予約なしで受診された場合は、あくまでも予約患者さんが優先ですので、ある程度の待ち時間は覚悟して下さい。また、予約を変更されますと、一部の検査はキャンセルとなります。なお、急に体調を崩したり、急用ができた場合などは、速やかに対応いたしますので、各診療科の受付カウンターにご遠慮なくお伝え下さい。



## 以下に、電子カルテになって、よくなったことをいくつか紹介します。

### 1. 採血やレントゲンの検査結果が早く届きます。

至急の血液検査は採血してから30分程度に、レントゲン撮影も15分程度で写真の結果をお話しできます。CTスキャンやMRIなどの専門的な読影技術を要する検査でも、複数の専門医が数分で読影を完了できるようになりました。

### 2. 患者さんもカルテの記載内容を見ることができます。

患者さんの症状や医師がどう考えているかといった診断内容が、患者さんも一所に目の前の画面でご覧いただきながら記録されます。血液やレントゲン検査の結果なども画面でご説明いたします。今まで以上に、ご自身の診療内容について理解が深まると思います。

### 3. お支払いが早くなりました。

診察が終わった時点で、診療にかかった費用の計算が行われるので、特別な紹介状や生命保険の診断書など計算が難しいものがある場合以外は、今までよりもお支払いが早くなりました。

### 4. 医療の安全性が一層高まります。

人間の行為にはある程度のミスはつきものです。人とコンピュータが安全性を二重にチェックするシステムが採用されました。

## 安全対策は万全です！

個人情報が一度に大量に漏洩する事件が報道されていますが、医療情報では大変な被害がおこります。当院のシステムでは、病院内だけの独立したネットワークで、電話回線やインターネットなどといった外部と接続は一切ありません。セキュリティー対策委員会を設けて、定期的なコンピュータ端末の監査を行っています。コンピュータウイルスの感染や個人情報の漏洩には現時点でできる最大限の予防ならびに罰則対策を施しました。

## 最後に

キーボード入力に慣れないうちは、患者さんとのコミュニケーション(意思の疎通)を取る時間が短くなる可能性があります。定期的なシステムの見直しや勉強会を開いて、細かな配慮が不足しないように努力します。病気の最新の情報を患者さんにわかりやすく説明したり、治療成績を公表したり、かかりつけ医との連携を計るといったサービスの向上が、医療費の削減や効率化につながるよう考えています。電子カルテを導入した目的が何かという初心を忘れず、患者本位の医療を追求していく所存です。



## 虚血性心疾患に対する循環器科の治療成績

循環器科医長 中村由紀夫

狭心症や心筋梗塞の治療法に、狭窄した冠動脈を風船やステント(金属の網)で拡張するカテーテル治療(PTCA)があります。今回は当院のPTCA治療成績を、平成7年10月以降にPTCAを行った854人のデータに基づきお話しします。対象は男性616人、女性238人、平均年齢67歳(24歳~92歳、疾患別では狭心症655人、急性心筋梗塞199人)でした。

PTCA成功率は854人全体で89%でした。狭心症患者での成功率は88%ですが冠動脈狭窄の複雑さにより成功率は異なります(図1)。狭窄を単純病変から複雑病変へとA、B、Cの3型に分類すると、成功率はA型100%、B型96%、C型70%となり、病変が複雑になれば成功率は低下します(図2)。狭心症でのステント使用率は43%でした。

急性心筋梗塞は全て緊急のPTCAで、その成功率は91%でした。主原因は冠動脈内血栓で21%の人にカテーテル血栓吸引を行いました。血栓吸引の頻度は今後増加すると思われます。ステント使用率は56%です。

PTCA治療は手術に比べ低侵襲ですが合併症は皆無ではありません。当科での合併症発生率は急性心筋梗塞、緊急バイパス手術が各々0.2%、心タンポナーデ、脳梗塞および輸血が各々0.1%、重症感染症、アレルギー、外科的血管修復および死亡は各々0%でした。

PTCA治療は狭窄病変を機械的に拡張する治療で動脈硬化を根本的に治癒させることはできません。そのため20~40%の再狭窄が生じます。本年9月から再狭窄予防薬をステントに塗った薬剤溶出ステントが使用できるようになり再狭窄率を9%以下に低下させる事が期待されています。

図1. PCIの成功率(%)とステント使用頻度(%)

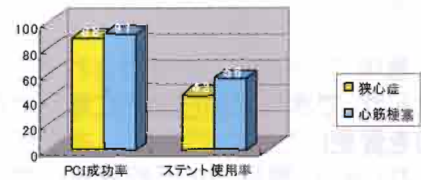
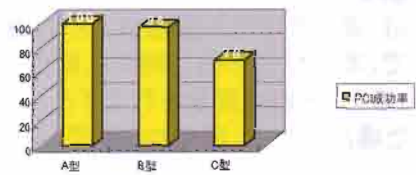


図2. 病変難易度別PCI成功率(%)



## ニッタ先生の神経百話

(第7回) 地震、台風、クマ、キノコ (しびれシリーズその1)



今年の夏は記録的な猛暑でへろへろ、やっと涼しい秋になったかと思えば台風一家のご登場、さらには中越地震と、異常気象の当たり年ですね。食料不足のクマも必死で、人里から町の中にまで現れる始末。ヒトも災難、クマも災難ですね。トホホ。

さて、秋といえばキノコですね。ニッタ先生もキノコは大好きですが、中には毒キノコもあるので皆様、御用心を。見られた方もあると思いますが、クマ騒ぎや地震の記事のそばに、「食用スギヒラタケによる急性脳症」という記事が出ています。急に痙攣を起こしたりするそうで。新潟・山形・秋田で起こっています(と、これを書いた日の夜、石川県でも発生したとテレビで放送していました)。ニッタ先生は、七尾と新潟にいた時に、秋になると手足が赤く腫れてとっても痛くなる、変なしびれの患者さんを診ました。患者さんに聞いてみると、「ヤブシメジを食べた」というのです。手や足の先がパンパンに腫れ、真っ赤っか、手足にちょっとでも何か(ガーゼでも)触るとたちまち激痛が走るの、夜も寝られず、患者さんに寝具をかけることもできませんでした。ヤブシメジは本名がドクササコ(毒笹子)という名前です(う??ん、いかにもやばそうなひびきですね?)、北陸から東北にかけて竹藪の中に自然に生えています。スギヒラタケとちがって、亡くなる方はいません。写真を見てください。カサの中央がへこんでいること、カサのひだが茎へ長く続いているのが特徴です。



きれいな花にはトゲがあり、おいしいものには毒もある。

はて?、ニッタ先生には・・・(爆)。



新医長紹介

耳鼻咽喉科医長：<sup>たきぐち</sup>瀧口 <sup>てつや</sup>哲也



平成16年7月から耳鼻咽喉科医長を拝命致しました。金沢泉丘高校、金沢大学、同大学院を経て、重心動揺（直立姿勢の身体がいかに揺れているかを研究するめまいに関する領域です）の研究で学位を頂きました。以来約20年めまいや難聴の医療に邁進しておりますが、中耳、副鼻腔疾患にも力を入れており、頸部悪性腫瘍疾患も各科のご協力を頂きながら診療を行っております。数年前から補聴器装用、睡眠時無呼吸検査を開始し、言語聴覚士の先生方と嚥下障害のリハビリに取り組んでおります。また、金沢大学臨床助教授、日本耳鼻咽喉科学会石川県補聴器キーパーソン、石川県国民健康保険団体連合会審査委員などつとめております。

趣味ですが、本年6月の院内ロビーコンサートでは久々にフルートを演奏しました。学生時代は金沢大学フィルハーモニー管弦楽団に所属しておりました。時々、鈴鹿サーキットでバイクを走らせてストレス発散させています。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新医長紹介

眼科医長：<sup>おくだ</sup>奥田 <sup>てつひこ</sup>徹彦



平成8年に金沢大学を卒業し、平成9年には1年間、当時国立金沢病院で研修をしていました。外来の奥にスタッフが集まる小部屋があるのですが、そこにいるとよく当時のことを思い出します。ここ金沢医療センターに来るのは7年ぶりになりますが、皆様よろしくお願ひします。

宮谷理香オータムコンサート（ピアノの調べを聞いてみませんか）が開催される

金沢市出身(東京都在住)で国際的に活躍中のピアニスト、宮谷理香さんのボランティアコンサートが11月5日(金)の夕方、当金沢医療センターで開催されました。ショパニストとして有名な宮谷さんですが、音楽を気軽に楽しんでほしいと、馴染みの曲を中心に構成したコンサートとなりました。前半はモーツァルトの“トルコ行進曲”やベートーヴェンの“エリーゼのために”など普段は演奏することのない曲も、後半はショパンの“ノクターン”、“小犬のワルツ”、“英雄ポロネーズ”など一度は聴いたことのある馴染みの曲を、本番のコンサートさながら、プロのすばらしい音色を聴かせて頂きました。また非常に楽しいトークや、宮谷さんの伴奏(初の経験だそうです)に合わせて出席者全員で合唱するコーナーもあり(内灘中学合唱部の協力もありました)、和やかで楽しい雰囲気が味わえ大変好評でした。コンサート終了時には拍手が鳴り止まず、アンコールに2曲も応えて頂きました。患者様や職員の方々からお礼の言葉を賜り(宮谷さんのホームページにお礼のメールも届いたそうです)、企画した一員として大変満足しており、今後も継続して行っていきたいと考えています。



(第一外科医長 桐山)



## 新潟中越地震に対する災害医療班に従事して

私が独立行政法人国立病院機構の医療班として現地に到着したのは、地震発生から5日目のことでした。活動拠点である小千谷総合体育館に近づくにつれ、家屋の倒壊や地面の亀裂を目の当たりにし、地震の規模を見せつけられた思いでした。被災者の方々は一体どんな生活を強いられているのかと心配と不安でいっぱいでしたが、私の想像に反し、館内は仮設トイレが多く設置され、ボランティアによる清掃も行き届いていました。また、人々には笑顔がみられ、復興への活気さえ感じられました。しかし、長引く避難所生活での疲労や寒さなどから風邪症状を訴える人が多く、特に高齢者や小児などの夜間の症状悪化に対応するため、24時間体制の医療の必要性を強く感じました。また、余震への不安や地震発生時の恐怖体験を思い出し、夜も眠れない人が多く、そういう皆さんの(涙を流して訴えられる)生の声を聞く度に、心の傷に対するケアの重要性も痛感しました。これから寒さが一層厳しくなり、一刻も早い復興が望まれますが、被災者の方々に心からの笑顔が戻れることを祈りたいと思います。(手術部 西村副看護師長)



金沢医療センターは、10月23日夕方に新潟県中越地震が発生したことを受けて、2班の医療班(10月28日～31日;小千谷市、11月12日～15日;長岡市)を派遣して、被災者の方々への医療活動を行いました。

## 第58回 戴帽式挙行される

10月22日金沢医療センター附属金沢看護学校で戴帽式が行われた。厳かな雰囲気の中、ナイチンゲールの灯を戴き、戴帽生全員でこれからの誓いを歌にし、決意を新たにしました。木田学校長より『今、卵の殻を破り、周囲を見回し、感動している瞬間であろう。自分たちの歩もうとしている道をしっかり見据え、誰からも慕われ、思いやりあふれる看護師を目指してほしい』と式辞があった。戴帽生代表伊藤早紀さんは、『入学してから学習をしていく中で、専門用語に戸惑い、不安と期待の毎日で、自分たちの目指す道の厳しさを実感した。しかし、皆さんから支えていただきながら努力していきます。』と誓いの言葉を述べ、木田学校長と固い握手をした。



(看護学校 澤味)

### 平成16年度第58回戴帽生 誓いの言葉

私たちはここにお集まりの皆様の前で厳かに誓います

*Amazing grace !*

新たなる 光絶やさず ともし

我 導く尊き手 誓う 輝き 続けん

〈誓いの言葉の意味〉

すばらしき 恩恵

戴帽式を機に、気持ちを改め、この気持ちを光とします。今は先生・先輩・家族など周囲の人々(=手)に支えられていますが、いずれは自立し、その支えがなくてもこの光を自分のものとして輝かせていくことを誓います。

### 金沢医療センターの理念

#### 【理念】

私たちは、生命の尊さと人権を尊重し、高度で最良の医療をめざします。

#### 【基本方針】

- 一、説明と同意に基づく信頼される医療をめざします。
- 一、臨床研究を行い、医学の進歩に貢献することをめざします。
- 一、病診連携を密にして、地域医療に貢献することをめざします。

# 外来担当医一覧表

平成16年12月

診療科目		【初診受付時間】 午前8時30分～11時30分					備 考
		月	火	水	木	金	
内 科	初 診	吉 村	吉 尾	伊 勢	木 部	能 登	糖尿病教室：毎週月曜日(14:00～15:00) 禁煙外来：月、水、木、金曜日(14:00～) *キャリア外来 高血圧教室：第2水曜日
	初診(消化器)	鷹 取	島 上	方 堂	松 田	森 本	
	内分泌・代謝①	能 登	長 岡	土山(奈)	能 登	長 岡	
	内分泌・代謝②		(能 登)		土山(奈)		
	腎・膠原病	伊 勢	伊 勢	木 田	吉 村	吉 村	
	血 液	吉 尾		周 藤		池ヶ谷	
	呼 吸 器	木 部	丹 保	北	北	木 部	
	消 化 器 ①	島 上	松 田	足 立	*足 立	方 堂	
消 化 器 ②	森 本	鷹 取	森 本	土山(智)	土山(智)		
精 神 科		坂 井	小 室	坂 井	小 室	坂 井	
小 児 科	一 診	奥 田	田 丸	奥 田	酒 詰	奥 田	予防接種：火、木曜日14:00～16:00 午後の診察時間(特殊外来のみ) 月、水15:00～16:00・火、木14:00～16:00
	二 診	酒詰/田丸	前 馬	脇 坂	脇 坂	齊藤(剛)	
	(午 後) 特 殊	慢性疾患・発達 奥田・山田	1ヶ月検診・発達 奥 田	アレルギー・慢性疾患 奥田・田丸	乳児検診・発達 田 丸	循環器 酒 詰	
外 科	初 診 / 再 診	桐 山	初診のみ (当番医)	桐 山	初診のみ	小 島	
	再 診	小 島		小 島	(当番医)	桐 山	
	初 診 / 再 診	道 場		道 場		道 場	
	再 診	竹 川		竹 川		竹 川	
	再 診	黒 阪		黒 阪		道 輪	
	再 診	道 輪		(手術日)	酒 井	(手術日)	
整 形 外 科	一 診	末 吉	末 吉	初診のみ (当番医)	米 澤	初診のみ (当番医)	スポーツ外来：第2、4木曜日(15:30～16:30)
	二 診	米 澤	米 澤		末 吉		
	三 診	納 村	納 村		納 村		
	四 診	宮 田	多 田		(手術日)		
脳 神 經 外 科	一 診	池 田	池 田	当番医	池 田	正 印	月、水、金曜日：手術日
	二 診	赤 池	岩 戸	(手術日)	正 印	赤 池	
神 經 内 科		新 田	松本(泰)	新 田	松本(泰)	新 田	火：物忘れ外来(午前)、水：頭痛外来(午前)
循 環 器 科	一 診	関 口	中 村	中 村	中 村	武 田	
	二 診	佐 伯	佐 伯	大 辻	関 口		
	三 診		関 口	武 田	佐 伯		
心 臓 血 管 外 科	一 診	佐々木	遠 藤	佐々木	遠 藤	佐々木	
	二 診		川 上		松本(康)		
	三 診	(手術日)	松本(康)	(手術日)	笠 島	(手術日)	月、水、金曜日：手術日
皮 膚 科	初 診 / 再 診	川 原	松 下	川 原	松 下	川 原	乾癬外来：木曜日(13:30～)
	再 診	松 下	川 原	齊藤(佑)	川 原	齊藤(佑)	
	再 診	齊藤(佑)	齊藤(佑)	松 下	齊藤(佑)	松 下	
泌 尿 器 科		越 田 (手術日)	越 田	勝 見 (手術日)	石 浦	勝 見 (手術日)	ED外来：第2、4木曜日・ストマー外来第2月曜日 月、水、金曜日：手術日
産 婦 人 科	一 診	丹 後	瀬 戸	丹 後	金 谷	瀬 戸	妊産婦検診：月、金曜日午後 火、木曜日：手術日
	二 診	金 谷	当番医 (手術日)	瀬 戸	当番医 (手術日)	金 谷	
	三 診	谷田部		谷田部		谷田部	
	四 診	瀬 戸		金 谷		丹 後	
眼 科	一 診	奥 田		奥 田		奥 田	奥 田
	二 診	大 倉	大 倉	大 倉	大 倉	大 倉	
	三 診	当番医	当番医	当番医			
耳 鼻 咽 喉 科	一 診	瀧 口	瀧 口	瀧 口	瀧 口	瀧 口	聴覚、平衡：火、木曜日(15:00～16:00) 月、水、金曜日：手術日
	二 診	橋 本		橋 本		橋 本	
放 射 線 科	一 診	斎 藤	多 田		多 田	斎 藤	照射の依頼：毎日可
	(超 音 波)	小 林	多田・小林	大久保	多田・大久保	俵 原	
歯 科 口 腔 外 科	初 診 / 再 診	中 尾	窪 田	窪 田	初診のみ (当番医)	窪 田	火、木曜日：手術日
	再 診	窪 田	大 原	中 尾		中 尾	
	再 診		(手術日)	大 原		(手術日)	
麻 酔 科	一 診	岸 槌	岸 槌		岸 槌	岸 槌	ペインクリニック、術前診察：午前中
	二 診	横 山	野 竹			太 田	

※ 特殊外来及び午後外来は、予約が必要です。なお、急患については、終日受付します。



**コスモス広場**

去る10月4日、NHK教育テレビの「明日をつかめー平成若者仕事図鑑」という番組の中で看護師が取り上げられ、当センター南7病棟の看護師の動きを追う形で、日常の看護場面が紹介されました。

それに先立ち、NHKが女子高校生500人に対し「将来なりたい職業」についてアンケート調査をしたところ、看護師は第2位でした。また、現代の高校生が思い描く看護師像のキーワードとは「白衣の天使」「命と向き合う現場」「24時間体制の勤務」「厳しい仕事」なのだそうですが、高校生に限らず社会全体の認識もほぼ同様と思われます。

看護師には“チーム医療における患者様に最も近いパイプ役”という重要な役割がありますが、チーム医療という観点はあまり知られておらず、この番組を通して、なるほどと思われた方もいらっしゃるでしょう。また、登場した看護師が感じていた戸惑い、すなわち「患者様に合わせた看護がしたいのにゆっくりと接することができない」という理想と現実のギャップは、私たち看護師のほとんどが同じように感じていることでもあります。

それでも、同じ看護師の皆様から、「看護師の生き生きとした表情に、看護への姿勢が感じられてとてもよかった」などのメッセージをいただき、看護師という職業の一端を伝えることができたのではないかと思います。

この放映を通じて、これが看護の実際なのだと、高校生の皆さんに少しでも理解してもらえたとしたらとても良い機会でした。もし次回、このような企画があれば、今度は是非「将来なりたい職業の第1位」になれるよう、充実した看護を続けていきたいと思えます。

(記 井村)



第2回  
ロビーコンサート  
(平成16年10月18日)

今回は、ボランティアの高校生に演奏していただき、楽しいひとときを過ごしました。

**パートの看護師さん募集中**

- ・ 時 給 ; 1,240 円
- ・ 勤務時間 ; 週 30 時間以内  
(時間、曜日は、応相談)
- ・ 採用日 ; 相談に応じます
- ・ 待 遇 ; 各種保険有り
- ・ 有給休暇 ; 規定により有り

問合せ先 : 管理課給与係

(TEL : 076-262-4161、内線 2404)

編集後記: 独法に移行して、はや8ヶ月が過ぎようとしています。長く暑かった夏も終わり、紅葉もそこそこを迎えようとしている。今年は大型台風の上陸、新潟県では震度6強前後の地震が発生し道路、ライフラインが分断され多くの被災者が出ました。今なお余震が続き、数多くの被災者が避難生活を余儀なくされています。被災者の方にお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興を願うものであります。

さて、私どもセンターは、10月より電子カルテが稼動し、独法移行と共に一つの変革を迎え、あわただしい年でしたが、少しずつではありますが軌道に乗りつつあります。戸室石だよりも独法になって2号目になります。編集員一同読者皆様のニーズに応えられるような広報誌にしたいと思っております。どうぞこれからもご愛読のほどよろしくお願い致します。(T.C)

発行元:金沢医療センター(〒920-8650 石川県金沢市下石引町1番1号)

電話:076-262-4161 (19時以降の救急受付:076-262-4163)、FAX:076-222-2758

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~knzwhosp/> Eメール [admin@kanazawa.hosp.go.jp](mailto:admin@kanazawa.hosp.go.jp)

地域医療連携室(直通番号 076-262-4187、専用FAX 076-262-4188)

編集委員:石川倫子、井村政美、川原 繁、佐々木久雄、澤味小百合、周藤英将、滝野 豊、千代谷孝貴、西井佐織、増田昭二、松原弘和(五十音順)